

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和4年度第1回たかまつ創生総合戦略推進懇談会
開 催 日 時	令和4年8月31日（水）18時30分～20時5分
開 催 場 所	高松市役所防災合同庁舎13会大会議室（オンライン開催）
議 題	(1) 会長・副会長の選任について (2) 地方創生関係交付金等に関する効果検証について (3) たかまつ創生総合戦略に関する効果検証について (4) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員 (11名)	片倉委員、久保委員、糸井委員、後藤委員、小西委員、鈴木委員、田井委員、田口委員、佃委員、土井委員、中村委員、西森委員、野崎委員、藤本委員、古川委員、近藤オブザーバー
傍 聴 者	0人（定員5人）
担当課及び 連 絡 先	政策課 839-2135

会議の経過及び結果

(1) 会長・副会長の選任について

たかまつ創生総合戦略推進懇談会設置要綱第5条第2項の規定に基づき、委員の互選により会長が、会長指名により副会長が選任された。

会長 佃昌道委員 副会長 野崎千恵委員

(2) たかまつ創生総合戦略に関する効果検証について

事務局から、たかまつ創生総合戦略の効果検証について、事前に質問・意見のあった事業のうち、7事業の内容について説明した。

(施策名：文化財の保存・活用)

主な意見

(委員)

玉藻公園の来訪者数を増やしてほしい。高松城の復元は、難しいところもあると聞いているが、是非進めてほしいと思う。

(文化財課)

コロナの影響もあり、入園者数が減少していたが、7月の桜御門の一般公開などにより、最近は少しずつ回復してきている。歴史的建造物の復元は、本市の魅力づくりのひとつのコンテンツになると考えているため、担当課としては、天守の復元について、今後も検討していきたい。

また、文化庁は、これまでは史跡の中心的な建物の復元について、史実に忠実でないと認められないとしていたが、令和2年4月に示された新しい基準によると、資料調査を尽くしても資料が出ない場合は、多角的に検討した結果、妥当なものであれば復元可能となった。一方で、昨年度策定した保存活用計画について、今年度、文化庁の認定を受ける準備を進めているところだが、天守復元に当たっての一番の課題は、遺構の保存と復元する天守の安全性の両立であると考えており、今後もこの課題に向けて検討していきたい。

(委員)

文化財保護と観光のバランスは難しいものがあると思うが、是非検討してほしい。

(施策名：観光資源の活用と創出)

主な意見

(委員)

屋島については、連日の報道にあるように、整備がうまくいっているように思うが、新型コロナウイルスの影響があるので、ある程度、収束しないと、効果測定は難しいと思う。

(委員)

やしまーるは、完成しているわけではないと思うが、寂しさもある。施設を早く完成させないと折角の施設がもったいないと思う。

(観光交流課)

やしまーるは、施設内の展示等が完成していない状況である。瀬戸内国際芸術祭の秋会期の作品として、パノラマ展示の作品の整備を進めており、9月29日からの秋会期に間に合うように進めていきたい。また、屋島の自然・歴史・文化を紹介する展示についても、現在準備中であり、同様に秋会期に合わせて公開できるように取り組んでいく。さらには、多目的ホールである貸スペースについては、現在、備品を準備中のため、整い次第、一般向けに貸出を行っていきたい。多方面から期待が寄せられている施設のため、できるだけ早く活用できるように整備を進めていきたい。

(委員)

施設を初めて見に行った方にとっては、これで終わりかという反応も見受けられたので、説明本などのフォローがあれ

ばよかったと思う。

(委員)

やしまーる内で、現代アート の設営の整備を進めているが、現代アートや展示は一度見たら満足してリピーターが来るものではないと思う。継続的に来てもらうための仕掛けで、現在検討されているものがあれば教えてほしい。

(観光交流課)

パノラマ展示については、恒久展示なので、作品が変わるわけではないが、作品自体に様々な仕掛けが施されており、何度も見ている中で、いろいろな発見がなされるような仕掛けもあるため、来訪者のSNS等への投稿を機に、再訪される方も出てくると考えている。

また、作品自体が、日本に現存していない技法を使った大規模な油絵であることなど、美術史的にも、文化史的にも、非常に価値のあるものになるため、それが屋島に残されることを踏まえ、この作品を中心に、文化史について研究を深めるような会議の開催や、屋島の歴史・文化を題材にしたシンポジウムの開催など、MICEの誘致も含め、展開を図っていくことが可能だと考えている。

また、屋島の自然・歴史・文化を紹介する展示についても、単に見て学ぶだけでなく、展示を見た後に、実際にフィールドに出て学びを深められるような仕掛けを施しているため、小学校の学習等にも使用できると考えている。

さらには、恒久的な展示だけでなく、企画展示なども検討しており、屋島の新しい魅力を発見してもらうことで、再訪者の確保につなげていきたい。

多目的ホールについては、様々な方に利用していただきたいので、音楽の演奏会や発表会など市民の様々な利用を進めていく中で、再訪者の獲得に努めたい。

(委員)

来訪者をKPIに据えるだけでなく、収益性も重要になってくるため、文化財としての価値という観点だけでなく、収益を上げる方法についても、検討してほしいと思う。

(施策名：MICE (マイス) の誘致促進)

主な意見

なし

(施策名：中小企業等の育成と振興)

主な意見

(委員)

コロナ禍のため、オンラインでの面接を実施したと思うが、今後コロナが収束しても、デジタル技術を活用することは、一定程度、必要だと考えている。経産省でもDX関係の支援をしているので、民間企業においては、このような支援を活用いただきながら、それ以外の事務においても、デジタルをうまく活用した取組を進めてほしい。

(産業振興課)

商工会議所とともに、就職面接会を対面で実施したが、今年度は、別途オンラインでも個別面接を実施した。また、中小企業に関するDXについても、経済産業省の補助金を補完するため、本市独自の補助金の交付などを実施している。今後も関係各所と連携を図りながら、中小企業のDXを進めていきたい。

(委員)

大学への周知活動については、大学生へのアプローチも大切であるが、大学進学を機に県外に出る前の高校生に対して、高松の産業界のことをしっかりPRすることが大切である。もっと教える機会を増やしてほしい。

(施策名：中央商店街の活性化)

主な意見

(委員)

特例制度を40歳未満として実施した結果、実際に利用があったのか。あまり利用が無かった場合、コロナ禍で利用件数が少なかったと思うので、年齢制限を取り払うことはできないのか。

また、南部の商店街の空き店舗率が高くなっていると思うので、商店街によって補助率を変えることは考えているのか、教えてほしい。

(産業振興課)

令和2・3年度はコロナ禍で、このインセンティブを活用した方も減少し、数件にとどまっている。そのため、これからコロナ禍が収束していく中で、制度の見直しも必要と考えている。南部の商店街の補助については、各商店街の空き店舗率によって、補助上限額を分けている。

(委員)

今後、若年層の方たちが、新規創業を行っていくことが、高松市の活性化に大きな役割を担うと思うが、若年層への創業支援の取組は、どのようなものを検討しているか。

(産業振興課)

現在、各機関と連携し、高松創業サポートセンターを設けている。相談件数も、近年増加している中で、商工会議所等と創業支援策を検討しないといけないところであり、今後調整していきたい。

(施策名：生鮮食料品等流通の強化)

主な意見

(委員)

市場の再整備計画について、うみまち商店街は計画のとおりに進められているが、今後、水産棟などの整備計画については、どのようなものを予定しているのか。

県外から来た方が立ち寄り、水産品を購入できる道の駅の

ようなものや、他県に既にあるような観光バスが入れるような施設を作ってほしい。

(市場管理課)

再整備については、PPP/PFI などを含め、民間活力の導入を検討しているところであり、市場の活性化に繋がるような整備を進めていきたい。市場本来の業務を行いつつ、観光スポットとしても注目されるよう、活性化に努めたい。

(施策名：子育てと仕事の両立支援)

主な意見

(委員)

待機児童数が少なくなるのは良いが、先日、全国的に保育施設の経営が危なくなっているというテレビ報道があった。高松市内の状況を教えてほしい。

(こども保育教育課)

本市では、待機児童が未だ発生している状況で、今年度も改善傾向にはあるものの、目標には届いていない。

なお、経営難の施設については、子どもの数が減少しているが、保育所への申込者数は微増しており、現時点で経営できないという話は来ていない。

(委員)

テレビでは、保育施設に行かせたいが在宅ワークが浸透していることや、新型コロナウイルス感染症の影響で行かせたくないという親の心情も影響している一方で、経営が難しくなっている施設もあるので、そのあたりも注視してほしい。

(こども保育教育課)

保育施設の新設に関しては、地区ごとの待機児童数や申込状況を踏まえ、募集を決定している状況であり、今後も現状を見極めた上で、過剰供給にならないようにコントロールしていきたい。

(委員)

希望する保育施設に子供が1歳児になったタイミングで預けられる保証がないために、0歳児から預けた経緯がある。質問・回答の中で、小規模保育施設を増やしているという回答があったが、実際に小規模保育を利用することを検討したものの、3歳児に上がる際に、新たに施設を探す手間を考え、小規模保育を選択しなかった。

6歳児までの保育園を増やすのではなく、小規模保育施設を増やしている理由は何か。また今後も人気地区では小規模保育施設を増やす方向で検討しているのか。

(こども保育教育課)

今年度は小規模保育施設を5施設、新規開設した。地区としては待機児童が多く発生している中部地域であり、理由としては、0歳児～2歳児の待機児童の発生が大半であるため、小規模保育事業所の募集を行ったところである。

小規模保育事業所は人数が少ないため、きめ細やかな保育を受けられるというメリットもあり、選ばれる親御さん多い

る。御意見のとおり、3歳児になるときに、選考が必要になるが、これに対しては、入所選考の際に加点するなど、継続して入所できるように取り組んでいるところである。

(会長)

オブザーバーは御意見ありますか。

(オブザーバー)

令和3年度の取組の中で、コロナの影響で未達成の項目も多かったということだが、コロナ禍でありながらも成果を出している項目もあり、その部分に着目してお話をしたい。

「企業誘致交流の推進」や「生産体制の整備」など、コロナ禍でも一定の成果を上げている点については、もっと注目してもいいと思う。例えば、誘致に至った背景や認定農業者が増えた要因等を分析することで、高松市が持っている強みなどが見えてくると思う。その点の整理や分析を深め、これを一層強化する方向で、施策展開につなげていけば良いと思う。

(3) 地方創生関係交付金等に関する効果検証について

事務局から、地方創生関係交付金等を活用した事業について、各委員からの質問への回答を中心に説明し、効果検証を実施した。

推進交付金対象事業No. 1 : 「若者から選ばれるまちたかまつ」移住・定住促進」

主な意見

(委員)

この事業は非常に有効であると思う。

一方で、県外の大学に進学する高校生に、将来、高松に帰ってきてもらうため、高校生に対して高松市の産業界の魅力をPRすることが大切である。各機関が連携してやれることはまだあるので、さらに検討を進めてほしいと思う。

(委員)

同感で、市の魅力を子供に教えるのは早いほうが良いと思う。各企業が持っている技術等を小さいころから見せることも有効だと思う。

効果検証

(会長)

本事業は有効であったと評価してよろしいか。

(各委員)

了承。

推進交付金対象事業No. 2 : 「高松盆栽の郷」構想を中心とした盆栽と花き文化の振興対策

主な意見

(委員)

事業としては有効であると思う。引き続きブランド化を進めていけば良いと思う。高松の盆栽のブランド化が進めば、対外的にPRできることも増えるので、引き続きブランド化の質の向上に努めてほしい。

(農林水産課)

地域商標登録に向けて、“高松の盆栽”のブランド化に力を入れていきたいと考えている。今後も産地の皆さんと力を合わせて努力していきたい。

(委員)

ふるさと納税などで、盆栽を販売・提供するという取組は実施しているか。今後、検討してはどうか。

(農林水産課)

現在、ふるさと納税での返礼品としては取り扱っていないが、本補助金で整備を行った「高松盆栽の郷」という施設では、高級品から手頃な商品まで取り揃えているため、今後検討していきたい。

(委員)

高松盆栽の郷に行った際に、盆栽学校の参加を申し込もうとしたが、締め切られていた。もう少し目につくような形で、市民へ周知してはどうか。回数も増やしてほしい。

(農林水産課)

盆栽学校は、昨年度から実施している事業であるが、昨年度は多くの応募があり、年間を通じて満員であった。今年度は、新たにレベル別の講座を設け、春会期は、ほぼ満員の応募があった。秋会期についても、周知方法を検討しながら参加を募りたい。

効果検証

(会長)

本事業は有効であったと評価してよろしいか。

(各委員)

了承。

推進交付金対象事業No.3：スポーツを資源とした地域活性化のための屋島レクザムフィールド機能強化事業

効果検証

意見なし

(会長)

本事業は有効であったと評価してよろしいか。

(各委員)
了承。

(会長)

これで議題(3)を終了する。

本日、特に、高校生までの間に、高松市や高松市の産業界の魅力をPRできる方法を検討したほうがいいのではないかという意見があったので、また検討してほしいと思う。

事業の担当課には、今後の事業実施にあたり、各委員から出た意見を参考にしてほしい。

(4) その他について

(事務局)

今年度予定している、たかまつ創生総合戦略推進懇談会は、これで終了します。懇談会での意見は、今後の事業の円滑な推進や、見直し等を検討する際の参考としていきたい。

以上をもって、本日の会議は終了します。

(閉会)